

Vivere

ヴィーヴェレ

(生きる)

1号

2008 / 4

「ステファノと人生を愉しむ会」の会報誌

発行 ステファノ・ロドラ

校正 莓乃りんご

ステファノの挨拶

人生を愉しみたい皆さまへ

3月29日のイベントにあたって、「ステファノと人生を愉しむ会」の会報誌の1号を発行いたしました。

「人生を愉しみたいなら」カンツォーネとトークショー＋展示会＋パーティはあなたの人生の分岐点であり、そしてこの会報誌は新しい世界へとあなたを導く道しるべです。シンプルな内容ですが、ぜひ発見の喜びを感じ、幸せをわかちあいましょ。

Stefano Lodola

ステファノ・ロドラ

目次

ステファノの挨拶 1

恩人会員様への感謝のことば 1

会員の将来的な特典について 1

ステファノの座右の書 其の一

セネカの「人生の短さについて」 1

歌のお話

「帰れソレントへ」の裏話 3

ステファノの世界 4

恩人会員様への感謝のことば

次の方は恩人会員として入会されました。

● 湊 亜紀子 さん

ご支援を頂いて、誠にありがとうございます。

会員の将来的な特典について

「ステファノと人生を愉しむ会」会員のみな様へ

入会案内書にも書いてありますとおり、会員特典の中には将来的な項目も含まれています。グッズやCDの製作はまだ先の話ですが、必ず実現させてお届けします。展開をお楽しみにしてください。

ステファノの座右の書 其の一

セネカの「人生の短さについて」

私はいつも、自分が大切に思っている人や、人生に迷っている方、またはもっと向上心を持って欲しいと願う方に、本をお薦めします。いつも自宅に何冊かの在庫をそろえ、必要だと思う方には差し上げることにしています。現在5冊のシリーズになっており、一冊ずつ紹介して行きたいと思います。

今回は古代ローマの思想家セネカの代表作「人生の短さについて」を紹介します。

セネカ

ルキウス・アンナエウス・セネカ(ラテン語: Lucius Annaeus Seneca, 紀元前4年? - 紀元65年)は、古代ローマの政治家、思想家、詩人である。ローマ帝政の初期というひどく剣呑な時代に生きた。事実、かつての教え子ネロ帝から謀反に加担したと疑われ、自殺を命じられるのである。良く生きれば人生は十分に長いと説く表題作、『心の平静について』『幸福な人生について』のいずれもが苦境にたちむかうストア哲学の英知に満ちている。ストア哲学の徒としても著名で、劇作も行っており、ラテン文学の白銀期を代表する著述家とされる。ローマ市民としてコルドバに生まれた。皇帝ネロの家庭教師を務めた。ネロが皇帝に即位した後はその政策の助言を行うが、のちにその立場から退き、最後はネロ暗殺の陰謀に加担したとしてネロから死を命じられ自殺する。セネカの書いた悲劇はイギリス・ルネサンスの時代に英語に翻訳され、エリザベス朝の演劇に大きな影響を与えた。

人生の短さについて

「人々は時間を無料同然に惜しみなく使う。しかし、この同じ人々が病気がかかったときを見るがよい。もしも死の危険が刻一刻と近づいてくるならば、彼らは医者の肘にとりすがるではないか。」(P26)

もし私達が、突然余命何ヶ月と宣告されたなら、たとえば年末に年賀状を書いたりはしないのではないのでしょうか。もっと他にやりたいことがたくさんあるはずですが、でも、人間というのはそのような宣告を受けない限り、いつか必ず死ぬとはわかっている、明日はまず死なないだろう、1週間後もきっと死なないだろう、1ヵ月後もおそらく死んでいないだろう、1年後もたぶん死んでいないだろう……と、今日と同じ明日が永遠に続くものと思って生きていくのです。だからこそ、本当は出たくないと思っている結婚式に出席したり、会いたくない人と食事をしたり、いやいやながらもいろいろな飲み会に参加したりして、自分の時間を惜しげもなく他人に差し出してしまうのでしょう。しかし、それでは駄目なのです。もっと自分の時間を、自分の人生を大切にしなければならないのです。

人々は時間を無料同然に惜しみなく使う。しかし……もしも死の危険が刻一刻と近づいてくるならば、彼らは医者^の肘にとりすが^るではないか。

とは言え、たとえば戦う哲学者中島義道氏のように「年賀状や喪中葉書は一切書かない」「結婚式や葬式は一切出席しない」「学会や懇親会も一切出ない」など、見事なまでの徹底した自分優先主義を貫徹するような勇氣は私にはありません。せいぜい、本書を読んで、「ああ、今のままでは駄目だ。他人のためにこんなに時間をとられることなく、もっと自分のための時間を確保しなければ。」と決意する程度のひ弱な小市民です。情けない。情けないがそんな時に、本書を読むと、「それではいけない、これは唯一にして有限なお前の人生である、しっかりせよ」と励まされ、引き込まれるようにページをめくってまいります。

この作品は、人は長生きしたからと言って必ずしも充実した人生だったとは言えないし、充実が感じられないのならそれはむしろ短い人生なのではないか、という問いを投げかけています。時間の長さよりも、人生の充実こそ価値を求めているように思われます。例えば、嫌々仕事をする時は仕事が早く終ることばかりを願い、時間が過ぎ去ることをいたづらに望みますが、集中して仕事をする時には、あっという間に時間が過ぎ去っていたということが多々あります。この後者においてこそ、その

仕事には何か満たされるものがあると感じるのではないのでしょうか。セネカはその実感を求める事が肝要だと述べています。人生の終盤に掛かったとき人は誰もが過去を振り返ることでしょう。時間はみんなに平等に与えられています。この本は、愚かに人生を浪費することなく、短い人生を自分の為に生きたいと願う人の背中を押してくれる一冊です。



人生の短さについて 他二篇
(岩波文庫)

Lucius Annaeus Seneca (原著),
茂手木 元蔵 (翻訳)
出版社: 岩波書店 (1980/11)

歌のお話

「帰れソレントへ」の裏話

ナポリターナとしてはこれまたたいへん有名な曲「帰れソレントへ」です。ソレントというのはナポリ近郊の町でリゾート地としても有名なのだそうです。

そんなこともあってこの曲、そのホテルのコマーシャルソングとして作られたのだという説が良く語られています。どうも調べてみるとホテルで初演されたのはその通りなようですけれども、実は1902年、当時のイタリアの総理大臣ジュゼッペ・ザナルデッリがソレントを訪問したときに彼をもてなし、ついでに地域振興を訴えるためにソレント市長の依頼で作られたプロパガンダソングだ、というのが本当のところのようです。

そのときに歌われた歌詞はこれとは違ったようですが、楽譜が出版される際にこの歌詞のような去っていく恋人を呼び戻す歌詞に変えられたとのこと。またナポリの言葉で書かれていますので、翻訳も一筋縄では行きません。標準イタリア語では Sorrento (ソレント) ですが、ナポリ語では Surriento (スリレント) ですね。このあたりも原詞を検索するときは注意が必要です。

Turna a Surriento

「帰れソレントへ」

曲: Ernesto de Curtis エルネスト・ディ・クルティス (1875 - 1937); 詩: G. ディ・クルティス

ご覧よ このとてもきれいな海を！
たくさんの想いが息づいている
まるできみみたいだ、見た人の心を捕らえ
目覚めている者にも夢を見させる

ご覧 ご覧よ この庭を
感じて 感じてよ オレンジの花の香りを
やさしいその香りは
心の中に染み入ってくるんだ

なのにきみは言う「あたしは行くわ さよなら」と
きみはぼくの心を見捨て
この愛に満ちた土地を捨てていく
もう戻ってくる気はないのか？

Vide 'o mare quant'è bello!
spira tanta sentimento...
Comme tu, a chi tiene mente,
ca, scetato, 'o faje sunná!

Guarda guá' chisti ciardine,
siente sié' sti sciure 'arancio...
nu profumo accusí fino,
dint''o core se ne va...

E tu dice: "Io parto, addio!"
T'alluntane da stu core...
Da la terra de ll'ammore,
tiene 'o core 'e nun turná?!

※ぼくを置き去りにしないで！
ぼくにそんな苦しみを与えないで！
戻っておいでソレントへ
ぼくを生きさせておくれ！

ご覧よ ソレントの海を
この底には宝物が眠っているんだ
世界中を旅してる人でも
これほど素晴らしいところを見ることはないんだ

まわりのシレーヌたちを見てご覧
きみをうっとり見つめている
きみにやさしくしたいって
きみにくちづけしたいって

なのにきみは言う「あたしは行くわ さよなら」と
きみはぼくの心を見捨て
この愛に満ちた土地を捨てていく
もう戻ってくる気はないのか？

※

梅丘歌曲会館「詩と音楽」より

<http://homepage2.nifty.com/182494/LiederhausUmegaoka/songs/composer.htm>

※Ma nun mme lassá,
nun darne stu turmiento...
Torna a Surriento:
famme campá!...

Vide 'o mare de Surriento
che tesore tene 'nfunno:
Chi ha girato tutt'o munno,
nun ll'ha visto comm'a ccá!

Guarda, attuorno, sti Sirene
ca te guardano 'ncantate
e te vònno tantu bene:
Te vulessero vasá!...

E tu dice: "Io parto, addio!"
T'alluntan e da stu core...
Da la terra de ll'ammore,
tiene 'o core 'e nun turná?!

※

ステファノの世界

プロフィール

イタリアのカツララ(トスカーナ州)生まれ。自由思想家、美食家、毒舌家。ピサ大学大学院経営工学科卒、早稲田大学大学院ビジネススクールMBA(国際経営学)専攻在学中。2006年に歌に恋をする。2007年3月にカンツォーネを中心にワンマン・ショーに披露。イタリアで Clara Giuseppini 氏、Mauro Augustini 氏、フランスで Roger Yaeche 博士、日本で尾田頼彦氏に師事。ゴロゴロする猫のように人々を幸せにすることを使命とする。

正式なホームページ	www.stefanolodola.com
3/29 ショーのホームページ	show.stefanolodola.com
ステファノと人生を愉しむ会	www.stefanolodola.com/fan-club/
ミクシー	mixi.jp/show_friend.pl?id=4329170
ユーチューブ	www.youtube.com/stefanokun
myspace	www.myspace.com/stefanolodola
個人的なホームページ	www.stefano.jp
メール	info@stefanolodola.com
携帯メール	stefano.hibari@ezweb.ne.jp
電話	080 6636 1609